

「インフラ70」は、未来に向けたメッセージ

シビルNPO 連携プラットフォーム理事

一般社団法人建設コンサルタンツ協会副会長 酒井利夫



一般社団法人建設コンサルタンツ協会では、昨年9月から月一回のペースで「インフラ70」と称した講演会を開催しています。今日は、そのご紹介をしたいと思います。

1. 講演会の趣旨

戦後、様々なインフラが整備されその後の日本の発展を支え、多大な効果を生み出し、今もその役割を果たしていますが、それらのプロジェクトの多くは今やインフラに携わる技術者はもとより一般国民からも忘れ去られています。

インフラの老朽化対策、都市再生、国土強靱化等今後の日本の様々な課題に立ち向かおうとする現在の技術者にとって過去における技術者たちの先見性、困難への対処、心構えやそのプロジェクトの意義等について知ることは極めて有意義であると考えます。

そこで、(一社)建設コンサルタンツ協会(以下「協会」という)は、関係者の多大なご協力のもと、各プロジェクトに直接間接に関わった関係者から直接講演いただく機会を定期的に設け、その記録を残し、随時広く公開する事業を「インフラ70講演会」と称して開始しました。

この事業により、協会会員技術者だけではなく、他の多くの技術者、学生はもとより広く国民各層にもインフラそのものへの理解をより深めて戴くためにも有益であると考えているところです。

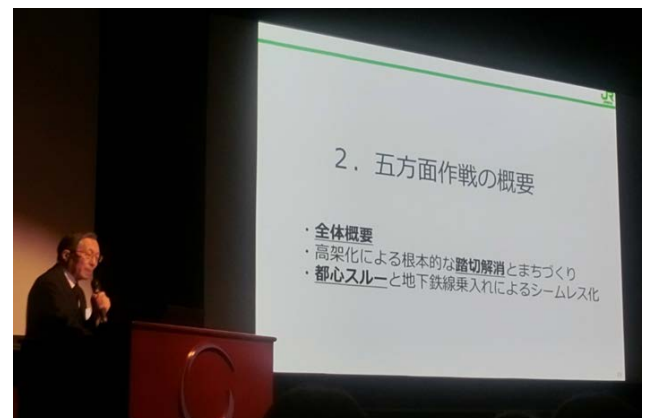
2. これまでの状況

具体的なプロジェクトは「協会」に設けた「戦後インフラ整備事業研究会(中村英夫委員

長)」で、インフラ関係各分野から100プロジェクト程度を目途に幅広く選定し、併せて個別プロジェクト毎にその講演について取り仕切る主査(監督)を指名・依頼し、講演内容(シナリオ、演出)、講演者(俳優)の選定、そのとりまとめ等をその主査(監督)にお願いしています。

講演会は概ね2時間程度とし、その成果を「プロジェクト記録」としてとりまとめ、原則WEB上で公開するとともに当協会機関誌「Consultant」の別冊として出版する他、この趣旨に賛同頂いた雑誌や新聞等でも既に公表掲載いただいています。

昨年9月に第1回として「黒四ダム」を取り上げ、以降本年9月の「佐久間ダム」まで既に13回を数えたところですが、各回とも、関係者の皆様の多大なるご協力により満員御礼の盛会の状況です。



第6回「五方面作戦」山本拓朗氏講演風景

3. 舞台は「過去」だが、心は「未来」

この事業開始前には、一部の関係者から、「過去の事を取り上げても、今となっては古い技術の紹介になるだけではないか」「わずか2時間では語り尽くせないのではないか」「関係

者が多くまとまらないのではないか」等のご心配もいただきました。

しかし開催してみるとそれは杞憂でした。毎回毎回、それぞれの主査や講演者等関係者のご努力のもと、各プロジェクトへのスポットライトの当て方が適切で、短い時間の中で、時代背景や、解決に至る過程、心意気等のご紹介があり、いずれの回も感動あり、共感あり、そして未来に向かってのメッセージあります。また講演会終了後の交流会での意見交換も好評をいただいています。また、参加者の多くは建設関係者ではありますが、中には、一般の会社の方で何回も聴講されている方もいらっしゃいます。

これまで取り上げたテーマの中には、プロジェクトそのものが密接に関連する地域での再講演を望まれたものもあり、今年の7月には、

「黒四ダム」、9月27日には「京阪鉄道延伸」についての再講演を大阪で開催しました。今後、テーマによっては、関係者のご協力がいただければ東京以外でも開催できればと思っております。

また、この「インフラ70」をもっと広く多くの皆様にも知って頂けるよう多方面に発信していきたいと思っております。引き続き多くの皆様のご協力とご支援をいただきながら続けて参ります。

このCNCP通信をご覧の皆様、是非講演会にご参加ください。きっとそれぞれのお立場で心に響くものがあるものと確信しています。

よろしく願いいたします。

参考：建コン協ホームページ

<https://www.icca.or.jp/infra70/>

インフラ70 講演一覧表

開催日		題目	講演者
第1回	H30. 9. 20	社運を賭けて人跡未踏の秘境黒部に築造した水力発電ダム ～黒部川第四発電所～	吉津洋一 ((株)ニュージェック) 大田弘 ((株)熊谷組) 小野俊雄 ((株)安藤・間)
第2回	H30. 10. 12	戦後の苦難の中で建設され、東京都心の大発展を導いた地下鉄丸ノ内線	大門信之 (元帝都高速度交通営団) 斎藤良太郎 (元白石基礎工事(株)) 河内汎友 (汎技術事務所)
第3回	H30. 11. 26	大阪と京都の都心部での鉄道延伸事業	金馬昭郎 (京阪ホールディングス(株)) 長瀧元紀 (京阪産業(株)) 泉谷透 (京阪電鉄不動産(株)) 谷口智之 (京阪電気鉄道(株)) 中井好一 ((株)奥村組)
第4回	H30. 12. 25	環境への配慮とともに高架から地下へ ～首都高中央環状線47kmの整備の歴史～	鈴木剋之 (ショーボンド建設(株)) 石井信隆 ((株)大林組) 飯島啓秀 (大成建設(株)) 大島健志 (首都高速道路(株))
第5回	H31. 1. 29	渡良瀬遊水地物語 ～治水・環境改善と公園化～	中村良夫 (東京工業大学) 松浦茂樹 (建設産業史研究会) 三橋さゆり (国土交通省利根川上流河川事務所) 野中健司 (元古河市) 岡村幸二 ((株)建設技術研究所)

エコで持続可能な「空石積み」の技術

有限会社鐵五郎企画代表
週末農民／弁当マイスター
大矢 みか



生きた知恵としての 農家の土木技術

最近、「石積み」に関心があります。中山間地域の棚田・段畑（段畑）の石垣、沖縄のサンゴの石垣、八丈島の玉石垣など、景観の美しさだけでなく、生業や生活を守るために生まれた技術の奥深さを感じています。週末にわか農民を二十数年つづけていることもあって、とくに惹かれるのは農家の土木作業として行われてきた棚田・段畑の「空石積み」です。

私の知る関東平野の水郷地帯には石垣棚田はなく、田んぼ周りの養生として行われるのは、田植え前の「畦塗り」。畦塗りは、田んぼの周りに土の壁を作って水が外にもれるのを防ぐ作業で、いわば畦（畦畔）の舗装です。田の土を持ち上げて法面を固めるので、環境への負荷はほとんどありません。また、人力であれ機械力であれ、生産者自らの手で行え、修復・再生ができることも良い点です。

石積みを 自分で積むことはできる？

中山間地で目にする棚田・段畑も環境に負荷をかけない農家の土木技術ではないかと思い、以前調べたことがあります。そのときは棚田の持つ多様な機能や文化的価値、景観の美しさ、耕作放棄地の増加などについて書かれたものか研究論文で、棚田の造成や維持管理についてはわかりませんでした。素人が棚田・段畑を作れるのか、工事業

者に頼むとしたらそれは農家の土木技術ではないのか……、疑問を残したまま時が経ちました。

今年に入り、石積みの風景とそれを支える技術の継承を目的として活動している「石積み学校」をインターネットで知り、疑問が解けてきました。

この石積み学校を立ち上げた真田純子さんは、石積みの技術を知る人が減り修復が困難になっている現代に、徳島県の山あいの村で石積み技術を習得した研究者。その真田さんが昨年末に出版した『図解 誰でもできる石積み入門』（農文協）によると、農地の石積みは、敵の浸入を防ぐためすき間をつくらない城郭の石垣とは異なり、農地の空石積みはすき間を空けたまま積むそうです。また、その土地にある野面石を材料とし、修復の際は崩した石を再利用するため地域資源を循環させる持続可能な工法であること。しかも棚田・段畑がある地域では地域の人たち



石積みの棚田（福岡県八女市星野村）。西日本に多い法面を野面石で積んだ棚田。